

車種特性を見極めた バックミラーを国際生産

海外
発注可
納期
相談
企画力
自信有
試作可
小ロット
量対
産
地



多機能なバックミラーの数々

業務内容
開発力が発揮された
制振性の高いミラー

自動車、オートバイ用のバックミラーを開発・製造してきた東陽工業。特に二輪車のバックミラーは、国内大手4社すべてに供給している。数あるバックミラーメーカーの中で、60年以上という歳月を生き残ってきた企業はわずか2社しかなく、同社はその内の一つ。走行中の振動が大きい二輪車の分野で「制振性」の高いミラーをつくり続け、中堅ながらも他社にはない開発力を維持している。

強み
難易度の高い開発を
蓄積した技術でクリア

制振性をアップするために同社が行ってきたのは、個々の車種に合わせたミラーのウエイト調整。車両の排気量やミラー形状等によって異なる振動特性をつかみながら、ウエイトの重さを微妙に変えることで、高い制振性を実現してきた。車両の軽量化によって開発の難易度は上がっているが、それに対応できるのも、数十年にわたり蓄積してきたノウハウがあるからだ。

この技術をベースに、電動格納型やヒーター内蔵型等、ミラーのハイテク化にも対応。また、流動性や剛性を解析する3Dシミュレーションソフトを導入することで、短期間での開発・製品供給を可能にしている。

生産拠点
時代を読み、いち早く
海外に工場を開設

「30年前から、海外に出なければ国際競争に勝てないと予感していた」と

元野社長。昭和63年にタイに現地法人を設立して海外生産を開始し、さらにはインドネシアにも工場を開設し、国内外向け製品をグローバル価格で生産している。

今では、日本での生産量が年間60万個に対し、タイでは140万個、インドネシアでは800万個と、海外生産比率の方が高い。しかも、いずれの工場にも試験・検査設備を備え、日本と同等の品質を保持。早くから海外に飛び出し、生産の標準化に取り組んできた賜物といえる。



インドネシア工場

今後の展望
「生産は海外、開発は日本」
をさらに強化

海外に複数の拠点を置くことで、インドネシアで製造した部品をタイに輸出するといった製品の相互間供給も可能になっている。

海外ではより生産力を高める一方、日本では、開発に特化した体制を整えたいと元野社長。同社には、ミラーの設計開発はもちろん、生産設備をも自社開発しているという強みがあり、この部分をさらに強化していく構えだ。

今後は、引き続きグローバル生産を推し進めながら、国内では人材育成に力を入れ、ものづくりの根幹である技術力に磨きをかけていく。

COMPANY PROFILE

東陽工業株式会社

大阪
24

当社の
歴史

自転車から始まり、バイク、ミゼットと日本のモータリゼーションの中で、ずっとバックミラーの開発・製造を行ってきました。合併なしでここまで生きてきたバックミラーメーカーは、当社くらいではないでしょうか。25年前にタイ、平成8年にはインドネシアにも進出し、国際的なビジネスを軌道にのせた今、欧米を視野に入れた展開も可能と考えています。

大きくなくていい。収益性の高い良質な
企業こそ、生き残っていける。

代表取締役 元野 皖史さん



■主な事業内容

自動車・オートバイ用のバックミラーの設計・製造・開発 等

■主な取引先(納入先)

自動車メーカー（四輪・二輪）等

住 所／〒547-0035
大阪市平野区西脇
4-1-50
TEL／072-992-1040
FAX／072-992-3872
創 業／昭和25年9月
設 立／昭和25年9月
資本金／7,920万円
従業員／68名

<http://www1a.biglobe.ne.jp/toyo/>